

令和5年度 第2回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録 要旨

開催概要

日 時 令和5年11月27日（月） 10:00～

場 所 登別市役所 2階 議場

出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

2 あいさつ

皆様おはようございます。朝早くそしてご多忙のところ、出席いただき心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

本市の地域公共交通計画は2年目に突入しまして最終年度に向けて、徐々にではありますが、具体的な取組を進めております。本日は、地域公共交通空白地域での実証実験の結果や登別温泉地区でのグリーンスローモビリティが議題となっております。また、胆振地域の市町と市町村を跨ぐ公共交通の課題整理のための計画を、現在、胆振総合振興局が中心となりまして市町村の枠を超えた対策を考えておりますので、本市の計画を進める上でもその辺を意識しながら議論できればと思いますので、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

3 会議の成立報告

- ・ 本日の協議会委員出席者数は11名
- ・ 委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会設置要綱の規定に基づき、会議が成立していることを田中会長が報告

4 議事録署名委員の指名

- ・ 田中会長が石川委員と坂本委員の2名を議事録署名委員に指名

5 議事

(1) 公共交通空白地域（常盤町・柏木町）の実証運行結果について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・ 別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■ A 委員

Q1：資料11頁にタクシー事業者への影響という記載があり、1年前と比較すると月150～200件の利用数減少とのことだったが、資料上の「アンケート調査では30%の方が普段はタクシー利用と回答し、上記では40%であり一定程度の影響があったといえる」とはどういった意味か。

A 1 : 1年前と比較すると月 150~200 件の利用数減少ということであり、こちらで割合を算出したところおおよそ 40%となった。また、実証実験中のアンケート調査によると 30%の方が普段の交通はタクシーを利用していると回答があったことから、減少した利用者のほとんどは実証実験の市バスに乗車されたのだろうという趣旨で記載した。

Q 2 : 承知した。また、今回は市所有のバスで市職員が運行していたが、タクシー事業者に事業を委託するような想定はされているか。

A 2 : 市内で運行しているタクシー事業者 2 社との調整や、市内の他の公共交通空白地域に対する検討もあるため今後考えていきたいが、想定としてはそのような方法もあると考えられる。

■ B 委員

Q 3 : 今回の実証実験の運行結果として、利用者は結構いたと感じられた。しかし、こういう事業が行われるとタクシーの利用者が減少してしまうため、調整が必要となってくると思われる。また、柏木町・常盤町では以前、路線バスが運行されていたものの利用者減により運行を取りやめた経緯があったと記憶しているが、現在の登別市は高齢化も進行していることから、再度運行してみてもどうかと考えている。柏木町・常盤町ばかりではなく、登別本町などの公共交通空白地域についても路線バス等で対応できないか検証すべきではないかと思う。タクシー業界では運転手が少なくなり、深夜帯には配車依頼をしても断られる例も出ている。今後、行政がタクシー利用に対して補助を行ったとして、運転手不足であるタクシー業界が対応可能なのかという問題もある。今後はそういった調整も含めて協議会でお話していきたい。

A 3 : 他の地域での実証実験というご質問については、今回の実験においてタクシー事業者に対して大きな影響があったことから同じ手法での実施は難しいと考えており、他の方法を考えていきたい。また、タクシー運転手が少なくなってきたとの話もありましたが、タクシーやバスの利用助成を行った場合に懸念される問題として、利用者が多い場合、タクシーが不足するという点があり、どれだけ稼働できるのか、お待ちいただく時間がどれほど出るのかといった部分があるため、事業者とも話をしていきたい。

■ C 委員

Q 4 : 最近、高齢者の交通事故が非常に多いということで、私たちは高齢者の免許の返納を勧めているが、買い物や病院へ行く必要があるものの公共交通機関では都合の良い便がなかったり、バス停まで歩くのが大変などといった理由から免許返納に踏み切れない方が多数いる。そういった方を免許返納に向かわせるような公共交通のあり方、補助制度のあり方などを今後の課題として本協議会で議論していきたい。

A 4 : ご意見のあった免許返納については登別市の公共交通計画にも記載されている事項であり、併せて検討していきたい。

■ D 委員

意見 : 室蘭でも皆さんがおっしゃられていたような状況が起こっており、令和 2 年度頃から「室蘭 MaaS」という言葉を使いながらタクシー等の実証実験を始めているところである。度々、白鳥台での実証実験を行っているが、まだ免許返納はしない、自家用車を利用したいという

方も多く、まだ実現には至っていないのが現実である。とはいえ、今年度、地域公共交通計画の改訂作業を行っており、更には北海道経済産業局の助成を頂きながら、パナソニック ITS（株）と共にタクシーに関する実証実験をアークスや中島地区の商店街、中央町の方で行っている。これはタクシーの相乗りで街に買い物に来て頂いた際にクーポンを配布し、次回以降タクシー料金が割引となるという形であり、既存のタクシー事業者のリソースを使いながら今の公共交通を補完するような形で高齢者をはじめとした車を使えない方々の足を確保する取り組みである。11月18日の室蘭民報でも記事にしているが、中央町の方で利用が伸びていると書かれている。様々な理由はあると思うが、中央町は坂が非常に多く、高齢者の方々が歩けないということで、多少お金を払ってもいいからタクシーを利用し、アークスやコープへ買い物へ行くなどしており、まずは事業者との共存の道を探っているところである。今回の資料の15頁からは主な公共交通の種類が記載されており、登別ではこれから形を探っていくこととなると思われるが、実証実験を行ったことによって今まで街中になかなか出られなかった高齢者の方の移動が活性化され、楽しんでおられる、買い物ができるようになった、家に引きこもってばかりでなく友達と会えた等とおっしゃられており、やっていること自体は大変良いと感じる。あとは一番地域にあったもの、持続可能な形を探ることとなるかと思う。先ほどもご意見があったが、事業者についてはこのままでは運転手が不足していくと思われ、タクシーチケットを配布するような取り組みでは多分無理だろうと個人的には思っている。すると、乗合型のタクシーであれば最大9名まで乗れるという検討もあることから、実証実験の際に1便あたり最大何人乗ったのか等の詳細なデータと照らし合わせてお話ししていきたい。また、実証実験の際の事業者の実態、どのエリアで利用者が減少したのか、前年同月ではなく直近の1ヵ月前と比較するとどうなのか等思うところがあるため、そういった点を検討しながら実際の利用ニーズに合わせた形のサービスにしていくなのがこれからの調整になると思う。

【審議結果】

- ・承認

(2) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）に係る地域公共交通計画の認定について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき報告の内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■D委員

意見：今夏、オニスロにカメラを付け、どの地点で乗客が乗降しているかを把握し、地図上に落とし込む作業をした。それを見ると、バスターミナルや地獄谷、極楽通りが多かったが、極めて面白いのが、最奥部である天然足湯のバス停での乗降客が大変多かった。これがどういうことかということ、グリーンスローモビリティを導入したことによって、今までは遠くてなかなか魅力が伝わらなかった場所にお客さんが行けるようになったものである。グリーンスローモビリティ単体で見れば収支度外視で実施しており赤字となるが、温泉街そのものの魅

力を高めることは確実であり、そういった資料も計画に盛り込んでいただければ、と考えている。

6 閉会